

## 「おいらがバナナだったら」

おいらがバナナだったら、あれになるんだろうな。  
実がいっぱい詰まった、黄色で、ぽっちゃり太ったバナナ。

おいらが山だったら、ゴロゴロ言っている山なんだろうな。  
雪と雲に覆われて、絶対に噴火しないんだ。  
(うーん。もし、噴火しちゃったとしても、誰も傷つけたくはないなあ)

おいらが鳥にならないといけなかったら、大きいのがいいな。  
大きな大きな翼の、首の長い鳥さ。

みんなは堂々と飛んでいるおいらの姿を下から眺めることしかできないんだ。

おいらが牛なら、あそこに立ってるあいつみたいになりたいな。  
みんなはおいらにみとれてしまって、緑の草の上に立つ黒い牛よりも大切なことなどありはしないって思っちゃうんだ。

おいらが雲なら、あの立派なやつだったら、サイコーだなあ。  
大きな黒い雲は、稲妻と雷鳴、それと雹を世界中に放つのさ。

でも、もしかしたら小さいかもしれない。  
軽くてふやふやな雲かもしれない。  
でも、それもいいかもしれないな。

おいらがてんとう虫だったら・・・・・・よく分からないや。多分、小さくて怯えてるんだろうな。  
でもひよっとしたら、違うかもしれない。  
かしこくてゆうきのある赤いてんとう虫になって、なにも気にしないで空高く舞って、飛んでいくんだ。

おいらが魚だったら・・・・・・うーん、あまり楽しくはないだろうな。  
魚にはなりたくないや。  
クジラだったら、ちょっとはなってみたいかも。  
でもやっぱり魚は嫌だなあ。

おいらが象だったら、どこを歩くときもみんなを踏み潰さないように気をつけないといけないや。

でも、そうやって歩いているうちに慣れるんだろうな。

象になるんだったら、アフリカの象がいいや。

大きくて、強くて、自由になりたい。

おいらがスプーンだったら、あれなんだろうな・・・・・・・・

綺麗な形をして、ハゲている銀がいいアジを出してるんだ。

スプーンになるなんて、変な考えだって事は分かってる。

けど、自分では結構いい閃きだと思うんだよね。

おいらが星だったら、あの小さいやつがいいや。

ちょうど他の星の上で光っているあれさ。

おいらに微笑みかけてくれて、他の星とは違う特別な星なんだ。

おいらが木だったら、とても幸せに違いない。

木は、なれるものの中で、いちばん懂れるなあ。

おいらが大人になっても、その気持ちは変わらないんだろうな。

おいらが猫だったら、真っ白でツンとしてるんだ。

大好きなみんなが近づいてくる時だけゴロゴロと喉を鳴らすんだ。

もし、おいらがイタズラしたら、「何の騒ぎ!？」って、みんなビックリするんだ。

おいらがライオンだったら草原のあの一頭だ.....友達と一緒に座りながら深く考えるんだろうな。

でも、ライオンだったら、みんなおいらを怖がるんだろうな。

だから、ライオンにはなりたくないな。

おいらが小さな男の子でも、今みたいな少年でも、一いや、すごく大きくも小さくもなくてー

いろんな男の子や少年について考えてみたけど、やっぱりいちばんいいのは、

おいらだ。